

# 調査1：燃料油の動粘度低下によるエンジンへの影響調査

## 懸念事項：

動粘度の低い燃料油を使用すると加熱温度が低く調整され、酸腐食の可能性

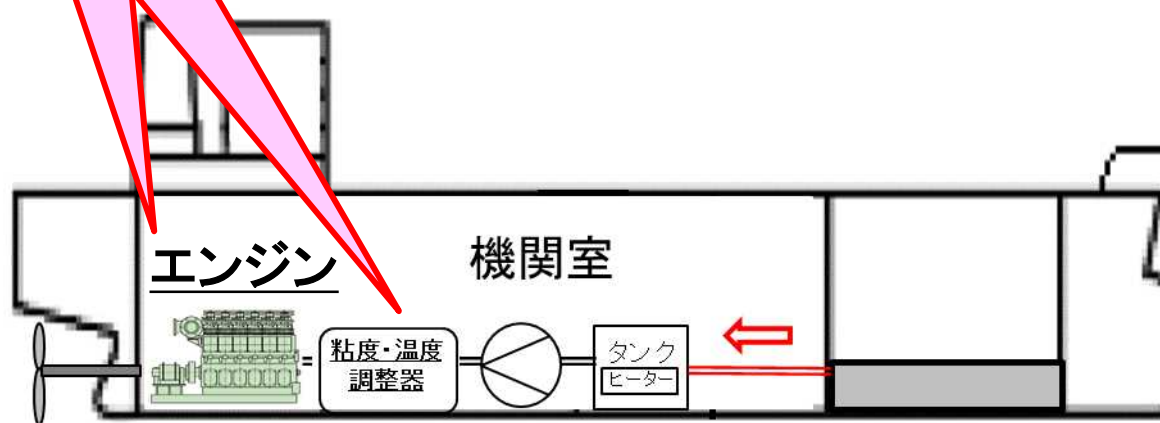
低温域での粘度・温度調整ができない可能性

## 調査結果：

動粘度15cSt以上(@50°C)であれば、燃料油を100°C程度<sup>※1</sup>に加熱することにより、エンジンの改造無しで対応可  
100°C程度であれば、既存の粘度・温度調整器により調整可能<sup>※2</sup>

※1 エンジンメーカーが推奨する温度

※2 粘度・温度調整器がある場合には、粘度調整モードから温度調整モードに切り替え、温度調整器のみの場合には温度設定を変更



**調査事項：**エンジン内部で問題の生じない燃料油の性状(動粘度)や温度の範囲を確認

**調査対象：**国内全船用エンジンメーカー(15社<sup>※3</sup>)

**調査方法：**エンジンメーカーへのヒヤリング等

※3 (一社)日本船用工業会会員企業

(株)アイメックス、(株)赤坂鐵工所、川崎重工業(株)、JFEエンジニアリング(株)、(株)ジャパンエンジンコーポレーション、ダイハツディーゼル(株)、(株)ディーゼルユナイテッド、新潟原動機(株)、阪神内燃機工業(株)、日立造船(株)、(株)マキタ、(株)松井鐵工所、(株)三井E&Sマシナリー、三菱重工業エンジン&ターボチャージ(株)、ヤンマー(株)